

第六條 裁判言渡書ノ謄本ヲ下付スル時差出ス受取書ニハ其謄本一枚五錢其他ノ謄本ヲ下付スル時差出ス受取書ニハ其謄本一枚三錢ノ割合ヲ以テ印紙ヲ貼用ス可シ
但裁判言渡書ノ謄本ハ一枚十二行一行十二字詰其他ノ謄本ハ一枚二十行一行十八字詰トス

第七條 勸解ニ於テハ一件毎ニ勸解表ニ署名ノ時貳拾錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第八條 此規則ニ依リ貼用シタル印紙ノ代價ハ曲者ヨリ直者ニ辨償スヘキモノトス

第九條 印紙ノ種類定價及ヒ貼用方ハ布達ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 印紙ハ管轄廳ノ許可ヲ得タル賣捌所ニ於テ發賣セシム其他ニ於テ發賣スルコトヲ得ス

第十一條 官許賣捌所外ニ於テ印紙ヲ販賣シタル者ハ貳拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ印紙ヲ沒收ス其情ヲ知テ之ヲ買取シタル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ印紙ヲ沒收ス

第十二條 前條ノ規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

○訴訟用印紙種類定價及貼用方 明治十七年二月太政官第四號布達
今般第五號布告ヲ以テ訴訟用印紙規則制定候ニ付印紙ノ種類定價及ヒ貼用方左ノ通之ヲ定ム
淡黑色印紙 一枚三錢

- 黑色印紙 同 五錢
- 赭色印紙 同 拾錢
- 茶褐色印紙 同 五拾錢
- 黃色印紙 同 壹圓
- 青色印紙 同 五圓
- 橙黃色印紙 同 拾圓
- 綠色印紙 同 拾五圓
- 嬌栗色印紙 同 貳拾圓

印紙ハ訴狀其他書類ノ正本ニ貼用シ貼用者ノ印章ヲ以テ消印ス可シ

●印紙類賣下賣捌規則 明治十九年六月大藏省令第二十一號
印紙類賣下賣捌規則左ノ通相定メ來ル七月一日ヨリ施行ス

但從前ノ印紙類賣捌規程ハ同日ヨリ廢止ス

印紙類賣下賣捌規則

第一條 此規則ヲ以テ賣下又ハ賣捌ヲ爲スヘキ印紙類左ノ如シ

- 証券印紙
- 煙草印紙
- 訴訟用印紙
- 賣藥印紙
- 手形用紙共

收稅

第二條 印紙類ノ賣下ハ地方廳之ヲ管理シ郡區役所ヲシテ其手續ヲ爲サシムヘシ

第三條 印紙類ハ第五條第六條ニ依リ賣捌ノ許可ヲ得タル者ノ外賣下ヲ爲サルモノトス

第四條 北海道廳長官府知事縣令ハ其管内各郡區ノ實況ニ應ジ印紙類賣捌所ノ配置方ヲ計畫シ豫メ其員數ヲ定メ之ヲ大藏省ニ届出ヘシ

第五條 印紙類ノ賣捌ハ左ノ資格アリテ其郡區内ニ居住スル者ニ限り之ヲ許ス

- 一 陸軍海軍及ヒ官吏恩給令ニ依リテ傷痍ノ爲メ終身恩給ヲ受クル者
- 一 巡查看守給助例ニ依リテ傷痍ノ爲メ終身恩給ヲ受クル者
- 一 陸軍恩給令第二十一條第一項海軍恩給令第二十二條第一項官吏恩給令第十條ニ掲クル寡婦孤兒ニシテ扶助料ヲ受クル者
- 一 巡查看守給助例第二條第三項ニ掲クル寡婦孤兒ニシテ扶助料ヲ受クル者

第六條 第五條ノ資格アル出願者其郡區内印紙賣捌所ノ定數ニ滿タサルキハ其郡區内ニ居住シテ一般陸軍恩給令海軍恩給令巡查看守給助例ニ依リ恩典ヲ受クル者ヲ以テ之ニ充ツ可シ

前項資格アル者ヲ以テスルモ猶定數ニ滿タサルトキハ二年以内ノ期限ヲ定メ一般人民ニ許可スルコトアルヘシ

第七條 煙草營業人若クハ其家屬又ハ同居ノモノニハ煙草印紙賣捌ヲ許可セズ賣藥營業者行商者若クハ其家屬又ハ同居ノ者ニハ賣藥印紙賣捌ヲ許可セサルモノトス

煙草稅則第三十九條賣藥印紙稅規則第八條訴訟用印紙規則第十一條証券印稅規則第二十五條ニ依リ處罰ヲ受ケタル者ニハ滿三年間印紙類ノ賣捌ヲ許可セサルモノトス

第八條 印紙類賣捌ノ許可ヲ得ント欲スル者ハ居住地ノ郡區役所ニ願出テ賣捌所ノ標札ヲ受ケ之ヲ戶外ニ掲出ス可シ

第九條 印紙類賣捌人改名又ハ同郡區内ニ轉居ノ節ハ其郡區役所ニ申出テ標札ノ訂正ヲ受クヘシ

但標札燒失毀損等ノ節ハ更ニ其下渡ヲ受クヘシ

第十條 印紙類ハ其代金上納ノ後之ヲ下渡ス可シ

但第五條第六條ノ受恩典者ニハ其代金五百圓マテハ公債證書ヲ抵當トナシ六箇月以内之レカ延納ヲ許スコトアル可シ

第十一條 印紙類ハ各一口ノ拂受高ニ從ヒ左ノ割引法ヲ以テ賣下ヲ爲スヘシ

拂受高一ト口	割引高
五百圓未滿	百分ノ七
五千圓未滿	百分ノ八
五千圓以上	百分ノ九

第十二條 印紙類ハ賣捌所ノ外ニ於テ一切賣捌クヲ得ズ

第十三條 印紙類ハ必ズ定價ヲ以テ賣捌クヘシ賣捌ノ外讓與貸與スルコトヲ許サズ

第十四條 印紙類賣捌人ハ印紙受拂ノ帳簿ヲ調製シ印紙受拂ノ都度其種類員數及ヒ年月

收稅

日ヲ記載スヘシ

但煙草印紙賣藥印紙ヲ賣捌タルキハ買受人ノ住所氏名ヲモ記載シ置クヘシ

第十五條 印紙類水火盜難等ノ爲メ亡失スルモ其代金ノ返付ヲ請求スルコトヲ得ス

第十六條 印紙類賣捌人所持ノ印紙ニシテ損傷又ハ汚染シタルモノハ拾錢以上取纏メ

ルモノニ限リ左ノ割合ヲ以テ之ヲ交換スヘシ

損傷 印紙壹圓ニ對シ 交換下付印紙八拾錢

第十七條 印紙類賣捌ノ許可ヲ得タル者左ノ事項ニ該ル時ハ賣捌殘餘ノ印紙類及ヒ賣捌

標札ヲ返納ス可シ此場合ニ於テハ返納印紙面稅額十分ノ一ヲ減シタル代價ヲ以テ之ヲ

買戻ス可シ

一 廢棄又ハ二箇月以上休業スル時

一 受恩典者ニシテ恩給ヲ受クルノ權消絶シ又ハ恩給停止ヲ受ケタル時

一 他郡區ニ移住スル時

一 賣捌ヲ禁止セラレタル時

第十八條 煙草印紙賣藥印紙ハ他府縣居住ノ者ニ賣渡スコトヲ許サス

第十九條 印紙類賣捌ノ許可ヲ得タル者ハ煙草印紙賣捌ニ關スル業務ヲ煙草營業者若ク

ハ其家族又ハ同居ノ者ニ委託スルコトヲ得ス賣藥印紙ノ賣捌ニ關スル業務ヲ賣藥營業

者請賣者行商者若クハ其家族又ハ同居ノ者ニ委託スルコトヲ得ス

第二十條 北海道廳長官府知事縣令ハ隨時主任官ヲ派遣シ印紙類賣捌ノ實況及現在高

檢査セシムヘシ

第二十一條 此規則ニ違反シタル者アルトキハ其情狀ニ依リ北海道廳長官府知事縣令ニ

於テ其賣捌方ヲ禁止スルコトアル可シ

○印紙代金延納抵當公債証書價格 明治二十年七月大藏省訓令第四十八號

北海道廳 府縣 沖繩縣 除ク

明治十九年六月當省訓令第二十二號印紙類賣下賣捌規則取扱手續第八項印紙代金ノ延納

ヲ許可スル時其抵當トナスヘキ公債証書ノ價格ハ左ノ通之ヲ定ム

各公債証書抵當價格

中山道鐵道 額面百圓ニ付 金九拾五圓

七分利付金祿 額面百圓ニ付

六分同

五分同

起業 額面百圓ニ付 金九拾圓

金札引換

海軍

整理 額面百圓ニ付

新公債 額面百圓ニ付 金七拾貳圓

○人民所持ノ印紙買受方 明治二十年十一月大藏省訓令第六十五號 北海道廳 府縣 沖繩縣 除ク

收稅

左ノ場合ニ於テ人民ノ所持スル印紙ハ其同郡區内ニ在ル印紙類賣捌人ニ之ヲ賣渡スコトヲ得ルモノトス但此場合ニ於テ印紙類賣捌人ヲシテ其買取タル事由及賣渡人ノ住所姓名ヲ帳簿ニ詳記シ置カシムヘシ

- 一 印紙類賣捌人ニシテ印紙賣下賣捌規則第十七條ノ或項目ニ該當スルトキ
- 一 印紙ヲ所持スル人民ニシテ明治十七年大藏省第七十三號達ノ場合ニ該當スルトキ
- 一 何人ニ限ラス遺失印紙ヲ拾得タルモノニシテ成規ニ據リ當該官署ヨリ其拾得印紙ヲ給付セラレタルトキ

●租稅未納處分方明治十年十一月 第七十九號布告

租稅未納ノ者ハ從來意納金ヲ徵シ本人身代限ヲ以テ取立ル等ノ處分モ有之處自今右處分ヲ廢シ更ニ左ノ通區別相立處分致スヘシ此旨布告候事

- 第一條 徵收期限 毎期ヲ過テ尙國稅ヲ上納セサル時ハ之ヲ賦課シタル財產ヲ公賣シテ徵收スヘシ若其財產他人ヘ賣與讓與シタル時ハ之ヲ買受讓受タル者ヨリ完納セシムヘシ
十四年第十五號布告更正
但書入賃入地所賃人ハ其ノ財產ニ未納稅アルキ其債主ニ於テ辨納スヘシト申立ル者ハ其意ニ任セ公賣ヲ行ハス
- 第二條 營業稅又ハ製造稅ヲ上納セサルトキハ其營業ヲ停止ス其製造品アル者ハ之ヲ公賣シ次ニ其器物及ホスヘシ
十八年第二十號布告改正
酒類及醬油造石稅ハ前項ニ依テ處分シ仍ホ其製造用ノ諸建物ヲ公賣スルヲ得

但酒類醬油及製造用諸器物建物ハ自他ノ所有ヲ問ハス其一部又ハ全部ヲ公賣シテ徵收ス

第三條 府縣稅民費モ此規則ニ準シテ處分スヘシ
但各別ニ財產ヲ指定シテ賦課セサル民費徵收ニ付テハ土地家屋ヲ除キ他ノ財產ニ付先取特權アリトス

第四條 凡租稅不納ニ付財產ヲ公賣セントスル時ハ地方官ニ於テ處分シ先ツ公賣ニ關スル入費ヲ引去リ而後國稅府縣稅民費ヲ徵シ剩餘アル時ハ之ヲ本人ニ還付ス若シ不足アル時ハ國稅府縣稅ハ官ノ損失ニ歸シ民費ハ該區ノ損失ニ歸ス
但該財產ニ付テ區長役所ノ帳簿ニ記載セル債主アル時ハ其殘金ヲ順次其債主ニ給付ス

第五條 刪除 十一年十月第三十四號布告追加
十四年第十五號布告刪除
第六條 財產公賣ノ際買受望人無之節該財產ハ之ヲ官沒ス
十一年第三十四號布告追加
附則

此布告ニ矛盾スル布告布達ハ廢止トス

○明治十六年三月太政官第十六號達
明治十年十一月 第七十九號布告第一條但書ノ場合ニ於テハ債主ニ其未納稅アル旨ヲ通告シ債主之ヲ辨納セサル時ニ公賣ヲ行フヘキ儀ト可心得此旨相達候事
○明治十六年八月大藏省第三十三號達

明治十年十一月 第七十九號布告第二條第二項ノ場合ニ於テ其酒類及器械本人ノ所有ニ非サルトキハ所有主ニ通告シ處分スルハ本年三月第十六號達ノ通可相心得此旨相達候事

○租稅未納處分取扱方 明治十一年二月大藏省乙第七號達

租稅未納ノ者處分ノ備昨十年十一月第七十九號公布相成候ニ付取扱方左ノ通可相心得此旨相達候事

- 一 租稅不納ニ付一旦裁判所へ相廻候モノト雖モ第七十九號公布到達ノ日ヲ界トシ未ダ身代限ノ處分ニ不取懸分ハ存公布ノ通地方官ニ於テ處分スルモノトス
- 但息納金徵收中ノ分ハ本文公布到達ノ日ヨリ息納金免除并公布ノ次第未納人へ論達シ尙三十日ヲ過テ不納ノ分ハ成規ノ通處分スルモノトス
- 一 改租着手中ノ分ハ納期後三十日ヲ過キ尙ホ不納ニ候共租額確定セサルノ故ヲ以テ其地所公賣ノ處分ニ及ハサルモノトス此際若シ本人他ノ負債ノ爲メニ身代限ノ處分ニ係ルモ裁判官ニ照會シ假額中ト雖モ納期後三十日ヲ過レハ該地ヲ公賣シ其年石代相場ヲ以テ前年ノ租額ヲ徵收スルモノトス
- 但其年石代未決ナレハ前年ノ石代ヲ以テス
- 一 他ノ負債上ヨリ身代限ノ處分相成ル際稅納ノ期限ニ到リ不納ノ分ハ其旨裁判官ニ照會シ其未納ニ係ル財產ハ成規ノ通公賣ノ處分ニ及フモノトス
- 但裁判官ニ於テ已ニ財產羅賣ニ及ヒシ場合ニ於テハ裁判官ニ照會シ其羅賣代價ノ内ヨリ受取ルヘシ

明治六年七月 第十八號公布地所賃入書入規則ニ照シ賃人セシ地所ノ租金賃取人ニ於テ未納スルトキ一應賃入人へ相達シ納稅セシメ不苦若シ之ヲ納メサルニ於テハ成規ノ通處分スヘシ

- 一 前納ニ非ル營業稅等未タ納期ニ至ラサルモ他ノ負債上ヨリ身代限ノ處分相成トキハ裁判官ニ照會シ其製造品及其器物ヲ公賣シ其期節ノ稅金徵收スルモノトス
- 一 逃亡失踪ノモノ納期後三十日ヲ過キ歸籍セズ納稅セサルトキハ其遺族親戚財產保管人等へ相達シ成規ノ通處分スルモノトス
- 但懲役人及犯罪拘留又ハ繫獄中ノ者等總テ本文同様處分スルモノトス
- 一 營業稅等不納ノモノハ一旦營業停止其製造品及ヒ其器物ヲ公賣シ尙不足ヲ生スル者ハ官ノ損失ニ歸スルハ勿論ナレモ後來再營業ヲ願出ルトキハ最前官ノ損失ニ歸セシ命員ヲ更ニ上納セシ上ハ許可スルモノトス
- 一 釀造稅ハ四月三十日限凡半方徵收ノ等ニ候處右期限前釀造石數檢査後ノ事故ニテ裁判所ニ於テ身代限ノ處分ニ相成候時ハ其節迄ノ酒相場平均ヲ以テ實際釀造着手ノ石高ニ應スル釀造稅收入決算スルモノトシ現存ノ酒類并器物等公賣徵收方裁判官へ照會致スヘキトス
- 一 公賣處分ハ納期後三十日ヲ過レハ其翌日ヨリ日數三十日以内ニ完了スヘキモノトス
- 一 本條以下二條十三年大藏省乙第七號達但書廢止ス
- 一 乙第二十六號達追加
- 一 若シ財產賣却代價不足ナル乎或ハ買請望人無之完納ノ場合ニ至ラサル分ハ處分濟ノ

取稅

後日數十五日以内ニ勘定拂テ申稟スヘシ
十四年第十五號布告ヲ以テ十年第七十
九號布告第一條三十日ハ刪除コナル

其二

●地方官官制明治十九年七月 勅令第五十四號

府 縣

第一條 各府縣ニ職員ヲ置ク左ノ如シ

知事

書記官

收稅長

屬

收稅屬

典獄

副典獄

書記

看守長

看守副長

第二條 知事ハ一人勅任二等又ハ奏任一等トス内務大臣ノ指揮監督ニ屬シ各省ノ主務ニ
就テハ各省大臣ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ施行シ部内ノ行政及警察ノ事務ヲ總理ス
但東京府知事ハ勅任一等ニ陞ルコトヲ得

第三條 知事ハ部内ノ行政及警察事務ニ付其職權若シハ特別ノ委任ニ依リ法律命令ノ範圍内ニ於テ管内一般又ハ其一部ニ府縣令ヲ發スルコトヲ得

第四條 府縣令ハ官報其他特ニ定ムル方法ニ依リ一般ニ公布シタル後其効力アルモノトス

第五條 府縣令ハ内務大臣其他主務ノ大臣ニ於テ公益ヲ害シ成規ニ違ヒ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ之ヲ取消シ又ハ中止セラルコトアルヘシ

第六條 知事ハ所部ノ官吏ヲ統督シ奏任官ノ功過ハ内務大臣及主務大臣ニ具狀シ判任官以下ノ進退ハ之ヲ專行ス

第七條 知事ハ法律命令ノ定ムル所ニ從ヒ所部ノ官吏ヲ懲戒ス其奏任官ニ係ルモノハ之ヲ内務大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第八條 知事ハ非常急變ノ場合ニ望ミ兵力ヲ要シ又ハ警護ノ爲メ兵備ヲ要スルトキハ鑛臺若シハ分營ノ司令官ニ移牒シテ出兵ヲ請フコトヲ得

第九條 知事ハ各郡區内警察分署ノ配置分合ヲ定ム

第十條 知事ハ廳中處務ノ細則ヲ設クルコトヲ得

第十一條 知事ハ其須要ニ從ヒ俸給豫算定額内ニ於テ雇員ヲ使用スルコトヲ得

第十二條 知事ハ一過年末ニ其廳ノ豫算定額内ニ於テ奏任官以下特別ノ勤勞アルモノヲ賞與スルコトヲ得其奏任官ニ係ルモノハ之ヲ内務大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第十三條 知事ハ其須要ニ從ヒ俸給豫算定額内ニ於テ内務大臣ノ認可ヲ經技術官官等俸給例ニ依リ技術官ヲ置クコトヲ得但地方稅ヲ以テ支辨スヘキ事業ノ經費内ニ於テスルモノハ内務大臣ノ認可ヲ經雇員トシテ之ヲ使用スルコトヲ得

第十四條 書記官ハ二人奏任二等以下トス知事ノ命ヲ承ケ部長ト爲リテ其所部ノ事務ヲ整理ス知事事故アルトキハ上席書記官其職務ヲ代理ス

第十五條 収稅長ハ一人奏任四等以下トス知事ノ命ヲ承ケ租稅ノ賦課徵收及徵稅費ニ關スル事務ヲ掌ル

第十六條 屬ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ書記計算ノ庶務ニ從事ス

第十七條 収稅屬ハ判任トス収稅部ニ屬シ收稅長ノ指揮ヲ承ケ其主務ニ從事ス

第十八條 典獄ハ判任一等又ハ二等トス知事又ハ部長ノ命ヲ受ケ監獄ニ關スル一切ノ事務ヲ掌理シ書記看守長以下ヲ指揮ス

第十九條 副典獄ハ判任三等乃至五等トス典獄ノ事務ヲ佐シ典獄事故アルトキハ其職務ヲ代理ス

第二十條 書記ハ判任六等以下トス典獄ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二十一條 看守長ハ判任五等乃至七等トス典獄ノ命ヲ承ケ監獄ノ看守ヲ掌リ兼テ看守ノ勤惰ヲ視察ス

第二十二條 看守副長ハ判任八等以下トス看守長ノ職掌ヲ佐ク

第二十三條 看守ニ關スル規程ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第二十四條 府縣廳ノ事務ヲ分掌セシムル爲メニ第一部第二部ヲ置キ部中便宜課ヲ設ケ
書記官ヲシテ各一部ノ長ヲラシム

第一部

- 一 府縣會水利土功會區町村會ノ會議ニ關スル事項
- 二 地方稅區町村費備荒儲蓄ニ關スル事項
- 三 外國人ニ關スル事項
- 四 文書往復ニ關スル事項及官印府縣印ヲ管守スル事
- 五 農工商務ニ關スル事項
- 六 他部ノ主掌ニ屬セサル事項

第二部

- 一 土木ニ關スル事項
- 二 兵事ニ關スル事項
- 三 學務ニ關スル事項
- 四 監獄ニ關スル事項
- 五 衛生ニ關スル事項
- 六 會計及公債證書ニ關スル事項

第二十五條 前條ノ外府縣廳中ニ収稅部ヲ置キ租稅ノ賦課徵收及徵稅費ニ關スル一切ノ
事務ヲ分掌セシム部中課ヲ設クルハ第二十四條ノ例ニ依ル

第二十六條 前條ニ指定スル外臨時ノ事務ハ知事ニ於テ便宜其主掌ヲ定ムルコトヲ得

警察官

第二十七條 各府縣ニ左ノ警察官ヲ置ク

警部長

警部

警部補

第二十八條 警部長ハ一人奏任四等以下トス知事ノ指揮監督ヲ承ケ左ノ職務ヲ掌ル

- 一 管内高等警察ノ事
- 二 管内ノ警察ニ關スル一切ノ事務及警察ノ會計ニ關スル事務ヲ整理スル事
- 三 管内各部ノ警察官ヲ指揮監督シ非常急變ノ場合ニ於テ管内ノ警察官ヲ統一指揮
スル事
- 四 管内各警察署及各警察分署ニ必用ノ警察官ヲ分配スル事

第二十九條 警部ハ判任一等乃至七等警部補ハ判任八等以下トス警部長ノ指揮監督ヲ承
ケ各其主任ニ屬スル警察事務ヲ掌リ部下ノ巡查ヲ指揮監督ス

第三十條 各府縣ニ警察本部ヲ置キ前第二十四條ニ指定スルノ外府縣廳中ノ一部トシ警
部長ヲシテ其長ニ充テ部中課ヲ設ケ前第二十八條ノ事務ヲ掌理セシム

第三十一條 府縣内各郡區ニ警察署一箇所ヲ置キ警察署ノ下其部内ニ於テ警察分署ヲ配
置シ警察署ハ警部ヲ以テ其長ニ充テ警察分署ハ便宜警部又ハ警部補ヲ以テ之ニ充テ部

内高等警察行政警察及司法警察ヲ掌リ法律命令ノ履行ヲ監督ス其項内左ノ如シ

- 一 諸營業市場會社製造所度量衡教會講社說教及拜禮ニ關スル事項
 - 二 演藝遊觀場遊戯場遊憩場徽章祭典葬儀賭博富籤其他風俗ニ關スル事項
 - 三 船舶堤防河岸地道路橋梁渡船場鐵道電信公園車馬諸建築田野漁獵採藻ニ關スル事項
 - 四 人命傷傷群集喧噪銃砲火藥爆發物發火物刀劍水災火災難破船遺流失物埋藏物ニ關スル事項
 - 五 傳染病像消毒檢疫種痘飲食物飲料水醫療藥品家畜屠畜場墓地火葬場其他衛生ニ關スル事項
 - 六 諸般ノ犯罪人ヲ搜索拿捕シ證據物件ヲ拾集シ之ヲ檢察官ニ交付スル等ニ關スル事項
 - 七 失踪者瘋癲者棄兒迷兒被監視者ニ關スル事項
 - 八 政治ニ關スル結社集會新聞雜誌圖書及其他ノ出版ニ關スル事項
- 第三十二條 各警察官ハ其職權ニ依リ又ハ上官ノ命ニ依リ若シハ部長收稅戶長郡區長及其他行政官ノ請求ニ應シ又司法警察ニ關シテハ檢察官ノ命ヲ承ケ其職務ヲ執行スヘシ
- 第三十三條 警察官ハ總テ其場合ニ於テ行政官又ハ司法官ノ自ラ其責任ニ當リテ警察官ニ請求ヲ爲ストキハ警察官ハ其請求ニ應スルノ義務アルモノトス
- 第三十四條 他府縣ヨリ警察官事務ニ關スル照會ハ必ズ知事ヲ經ヘシ但急施ヲ要スル場

合ニ於テハ警部長又ハ其事ノ執行ヲ要スル地ノ警察官ニ宛直ニ照會スルコトヲ得

第三十五條 巡查ニ關スル規程ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第三十六條 東京府下ノ警察及監獄ニ關スル事務ハ勅令第四十二號警視廳官制ニ依リ本

令中ノ條項ニ指定スル限リニアラス

郡區

第三十七條 每郡若シハ數郡ニ郡長一人區毎ニ區長一人及書記若干人ヲ置ク

第三十八條 郡區長ハ委任四等以下書記ハ判任三等以下トス

第三十九條 郡區長ハ知事ノ指揮監督ヲ受ケ法律命令ヲ部内ニ執行シ部内ノ行政事務ヲ

掌理ス

第四十條 郡區長ハ法律命令ヲ以テ委任シ及知事ヨリ特ニ分任スル條件ハ便宜施行シテ

後知事ニ報告スルコトヲ得

第四十一條 郡區長ハ行政事務ニ就テ其部内町村ノ戶長ヲ指揮シ其公同事務ニ就テハ之

ヲ監督ス

第四十二條 郡區長ハ郡區書記ノ任免ヲ知事ニ具申ス

第四十三條 郡區長ハ法律命令若シハ知事ヨリ委任セラレタル事件ニ付部内一般ニ告知

スルコトヲ得

第四十四條 郡區長ハ部内ノ行政處分ニ關シ警察官ニ請求シテ之ヲ執行セシムルコトヲ

得

第四十五條 郡區書記ハ郡區長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ分掌ス

島地

第四十六條 長崎縣鹿島縣其他今後指定セラルヘキ府縣ニ特ニ島司ヲ置キ部内行政事務ヲ掌理シ知事ノ委任スル條項ハ便宜之ヲ施行スルコトヲ得

第四十七條 島司ハ奏任三等以下トス

○官吏辭職後滿一ケ年經過セサレハ就職ヲ許サス
明治二十年四月 各官廳
各官廳ニ奉仕スル官吏ニシテ辭職シタル者辭職後滿一ケ年ヲ經過シタル後ニ非サレハ再ヒ就職スルヲ許サス且官等俸給共ニ前官ニ超越スルヲ得ス

○明治二十年四月内閣訓令

各官廳

閣令第九號發布當日以前ニ辭職シタル官吏ハ本令ヲ適用スルノ限ニアラス

●高等官官等俸給令 明治十九年二月 勅令第六號

官等及叙任

第一條 高等官ヲ分テ勅任官奏任官トス

第二條 勅任官中親任式ヲ以テ叙任スル官ノ辭令書ハ親署ノ後御璽ヲ鈐シ内閣總理大臣又ハ首座ノ大臣之ニ副署ス

第三條 親任式ヲ以テ叙任スル官ヲ除ク外勅任官ヲ分テ二等トス其辭令書ハ御璽ヲ鈐シ内閣總理大臣之ヲ奉行ス

第四條 奏任官ヲ分テ六等トス其任官ハ内閣總理大臣之ヲ奏薦シ其各署ニ屬スルモノハ

内閣總理大臣ヲ經由シテ主任大臣之ヲ奏薦ス

第五條 奏任官ノ辭令書ハ内閣ノ印ヲ鈐シ内閣總理大臣之ヲ宣行ス

第六條 各官同等内ノ順序ハ任官ノ前後ニ依ル

第七條 勅任官又ハ奏任官ノ官等内ニ於テ特ニ官等ヲ限ルコトヲ要スルモノハ各別ニ之ヲ定ム

第八條 内閣及各省中ノ局長ハ奏任官一等又ハ二等トシ局次長ハ現任局長ノ次等以下トス

第九條 同一ノ官名ニシテ等差アルモノハ毎等人員ヲ定メ内閣總理大臣ノ認可ヲ受クヘシ其每等ノ定員變更ヲ要スルトキモ亦同シ

俸給

第十條 勅任奏任文官ノ年俸ハ別表ニ依ル

第十一條 陸海軍武官ノ年俸ハ從前定ムル所ニ依ル

第十二條 議官交際官領事貿易事務官判事檢事理事地方官教官技術官ノ類其特ニ定ムル俸給ハ前條ノ外トス

第十三條 奏任官ノ年俸ハ各廳俸給定額内及其官等年俸ノ等級ニ依リ事務ノ繁簡ニ從ヒ各大臣便宜之ヲ増減スルコトヲ得

陞叙及特例

第十四條 官等ハ五年ヲ踰ユルニアラサレハ陞叙スルコトヲ得ス第十五條 每等人員ヲ定

ムルノ官ハ五年ヲ踰ユルモ闕員アルニアラサレハ陞叙スルコトヲ得ス
 第十六條 局長ノ闕員ニ依リ局次長ヲ以テ其闕ヲ補フコトヲ要スルトキハ第十四條ノ例ニ依ラス
 第十七條 各大臣秘書官ノ進退ハ第十四條第十五條ノ例外トス
 第十八條 勅任官ハ本令ノ外勅旨ヲ以テ特ニ其年俸ヲ増給スルコトアルヘシ
 第十九條 奏任官一等ニシテ上級俸ヲ受ケタル者勞績拔群顯著ナルハ内閣ノ上奏ニ依リ特旨ヲ以テ勅任官二等ノ下級俸ヲ給スルコトアルヘシ
 第二十條 奏任官他ノ官廳ニ涉ルノ兼官ハ兼ヌル所ノ俸給三分ノ一以内ヲ増給スルコトヲ得
 同官廳ニ於ケル兼官ハ俸給ノ多額ニ就キ之ヲ給ス
 第二十一條 官ニ在リテ死亡シタル者ハ年俸三分ノ一ヲ其遺族ニ給ス其非職者ニ於テモ亦同シ
 第二十二條 本令中俸給ニ關スル細則ハ大藏大臣其省令ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

勅任官	内閣總理大臣	一等	九千六百圓
		二等	四千圓
奏任官		一等	三千圓
		二等	二千四百圓
任官		三等	千八百圓
		四等	千二百圓
官		五等	九百圓
		六等	六百圓

各省大臣	中	八千圓	七千四百圓	六千六百圓	千六百圓	千四百圓	千二百圓	八百圓	五百圓
	下	四千五百圓	三千五百圓	二千四百圓	千四百圓	千二百圓	千	七百圓	四百圓

●地方官官等俸給令 明治十九年七月 勅令第五十五號

第一條 知事ノ年俸ヲ定ムル左ノ如シ
 勅任二等 上四千五百圓 下四千圓
 奏任一等 上三千五百圓 下三千圓
 第二條 知事ハ五年ヲ踰ユルニアラサレハ其年俸ヲ増給セス
 第三條 東京府知事ノ勅任一等ニ陞リタル場合及知事ノ敘任特令ハ勅令第六號高等官官等俸給令ニ依ル
 第四條 書記官警部長收稅長郡區長ノ敘任同等内ノ順序定員年俸及陞叙特例ハ前條ニ同シ
 第五條 屬典獄副典獄郡區書記監獄書記ノ俸給昇等每等ノ定員及在官死亡者ノ賜金ハ勅令第三十六號判任官官等俸給令ニ依ル
 第六條 警部警部補看守長看守副長及收稅屬ノ俸給ハ別表定ムル所ニ依リ昇等每等ノ定員及在官死亡者ノ賜金ハ前條ニ同シ

判任官

官等	一等	二等	三等	四等	五等	六等	七等	八等	九等	十等
警部	四拾五圓	四拾圓	三拾六圓	三拾貳圓	貳拾八圓	貳拾四圓	貳拾圓			
看守長					貳拾八圓	貳拾四圓	貳拾圓			
警部補								拾八圓	拾五圓	拾貳圓
看守										
副長								拾八圓	拾五圓	拾貳圓

判任官

官等	一等	二等	三等	四等	五等	六等	七等	八等	九等	十等
收稅屬	五拾圓	四拾五圓	四拾圓	三拾五圓	三拾圓	貳拾五圓	貳拾圓	拾五圓	拾圓	下八圓

●判任官官等俸給令 明治十九年四月 勅令第三十六號

第一條 判任官ヲ分テ十等トシ一等ヨリ十等ニ至ル

第二條 判任文官ノ月俸ハ別表ニ依ル

第三條 陸海軍准士官下士ノ月俸ハ從前定ムル所ニ依ル其他特ニ定ムルモノハ前條ノ限リニアラス

第四條 判任官五等以上ハ每等在職四年六等以下ハ每等在職三年ヲ踰ユルニアラザレハ昇等スルコトヲ得ス

判任官

一等	二	三	四	五	六	七	八	九	十
上七拾圓	五拾圓	四拾五圓	四拾圓	三拾五圓	三拾圓	貳拾五圓	貳拾圓	拾五圓	拾圓
下六拾圓									

第五條 每等ニ定員ヲ限リ缺員アルニアラサレハ定期ヲ踰ユルト雖モ昇等スルヲ得ス

第六條 判任一等ニシテ上級俸ヲ受ケ三年ヲ踰ヘタル者勞績拔群顯著ナルモノハ特別ヲ以テ別表ノ範圍ニ拘ハラズ漸次百圓マテ増俸スルコトアルヘシ

第七條 官ニ在リテ死亡シタル者ハ月俸三ヶ月分ヲ其遺族ニ給シ其非職者ニ於テモ亦同シ

第八條 本令中俸給細則ハ大藏大臣其省令ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

○高等官俸給支給細則 明治十九年四月大藏省令第十二號

第一條 高等官ノ年俸ハ之ヲ四分シ二月五月八月十一月ノ四期ニ於テ之ヲ支給スルモノトス

第二條 俸給ノ支給ハ新任轉任増俸減俸共總テ發令ノ翌日ヨリ起算ス其當月分ハ日割ヲ以テ計算スルモノトス

第三條 廢官退官及ヒ死亡ノ時ハ當月分ノ俸給ヲ支給シ日割ヲ以テ計算セス

第四條 非職廢官退官ノ者事務引繼殘務取調ノ爲メ特ニ命ヲ承ケ公務ニ從事スルトキハ

其間尙ホ從前ノ俸ヲ給與ス

第五條 願濟休暇旅行ノ者及ヒ私事ノ故障(自己ノ病氣ヲ除ク)ニ由リ上廳セサルモノ三十日以

後ハ日割ヲ以テ俸給ノ半額ヲ減スルモノトス

第六條 病氣(轉地療養トモ)ニ由リ上廳セサルモノ九十日以後ハ日割ヲ以テ俸給ノ半額ヲ減

スルモノトス但公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルモノハ此限ニアラス

第七條 優恩ニ由リ賜暇休養及ヒ暑中休暇ハ第五條及ヒ第六條ノ限ニアラス

第八條 兼官ノ増俸ハ其兼任應經費ノ内ヨリ支給スルモノトス

第九條 各廳俸給ノ支給ハ左ノ日割ニ依ルモノトス但休日ニ當ルトキハ順延トス

四日 (内閣) 外務省 大藏省

五日 (陸軍省) 海軍省 文部省

六日 (農商務省) 遞信省 會計検査院

第十條 轉任ノ場合ニ於テハ發令ノ日マテ前任廳ヨリ其俸ヲ支給スルモノトス

第十一條 轉任ノ時前任廳ニ於テ俸給ノ過渡アルトキハ新任廳ヨリ直チニ之ヲ前任廳ニ返付ス

第十二條 降等減俸賜暇旅行病氣其他ノ事故ニ由リ俸給ヲ追徴スヘキモノアルトキハ次期ノ俸給ヨリ差引計算スルモノトス

第十三條 非職ノ時其追徴スヘキ金額ハ大藏省ヨリ彙キニ支給シタル官廳ニ返付シ大藏

省ハ次期ノ俸給ヨリ差引計算スルモノトス

第十四條 會計ヲ異ニスル廳ヨリ官吏ヲ借用スルトキハ其間ノ俸給ハ日割ヲ以テ借用廳

ヨリ該官吏所屬ノ廳ニ返付ス

第十五條 第五條ノ場合ト第六條ノ場合ト相續テ起ルトキ其第五條ニ始マリ第六條ニ終

レハ其間通算シ九十日ノ後俸給ヲ減シ第六條ニ始マリ第五條ニ終レハ其間通算シ三十

日ノ後俸給ヲ減ス

第十六條 日割計算ノ法ハ年俸十二分ノ一ヲ以テ一箇月分トシ其月ノ現日數ニ割合計算

スルモノトス

○判任官俸給支給細則 明治十九年四月大藏省令第二十號

第一條 判任官ノ月俸ハ毎月左ノ日割ニ依リ支給スルモノトス

但休日ニ當ルトキハ順次繰上トス

二十六日 (内閣) 外務省 大藏省

二十七日 (陸軍省) 海軍省 司法省 文部省

二十八日 (農商務省) 遞信省 會計検査院

右ニ屬セサル諸廳

第二條 增俸減俸(非職減俸)共ハ發令ノ翌日ヨリ起算シ其當月分ハ日割ヲ以テ計算スルモノトス

第三條 新任ノ時ハ職務ニ就キタル當日ヨリ新官ノ俸給ヲ支給スルモノトス

第四條 轉任ノ時ハ前任職ノ事務ヲ終リタル翌日ヨリ新官ノ俸給ヲ支給スルモノトス

第五條 公務ニ由リ旅行スルモノニハ第一條ノ日割ニ拘ハラヌ翌月迄ノ俸給ヲ給與スルコトヲ得

第六條 右ニ掲グルモノ、外ハ總テ高等官年俸支給法ノ例ニ依ル

附則

一 新官制ニ依リ本年五月一日以前ニ任官ノ者ハ總テ五月一日ヨリ起算シテ俸給ヲ支給シ同日以後任官ノモノハ其月ノ現日數ニ依リ日割ヲ以テ舊官俸給ノ額ヲ支給シ新官ノ俸給ハ其翌日ヨリ起算スルモノトス

○ 備員俸給支給方 明治十九年九月大藏

省訓令第四十三號 備員俸給支給方ノ儀ハ判任官ト權衡ヲ失ハサル様適宜之ヲ定メ當省へ届出ヘシ

● 内國旅費規則 明治十九年四月

閣令第十六號 内國旅費規則ヲ定ムルヲ左ノ如シ

但明治九年太政官第六十四號達旅費定則中内國ノ部廢止ス

内國旅費規則

第一條 内國旅費ハ官吏公務ニ依リ本邦内ヲ旅行スルキ旅行中一切ノ費用ニ充ツル爲メ

之ヲ支給ス

第二條 内國旅費ハ各官等ニ依リ分テ六等トス別表ノ定ムル所ニ從ヒ順路ノ路程ニ依リ

瀛車賃瀛船賃車馬賃及日當ヲ支給ス但車馬賃及日當ハ管内外ニ區別シ之ヲ支給ス

第三條 瀛車賃ハ瀛車旅行瀛船賃ハ瀛船旅行車馬賃ハ陸路旅行日當ハ休泊料及其他ノ諸

費ニ充ツル爲メ之ヲ支給ス

第四條 官有ノ舟車馬及各官廳ニ於テ借入タル舟車馬等ニテ旅行シ若クハ旅行ノ性

質ニ依リ特ニ舟車馬等ノ實費拂テ許可シタル時ハ本令ノ瀛車賃瀛船賃及車馬賃ヲ支給

セス

第五條 瀛車賃ハ哩數瀛船賃ハ海里數車馬賃ハ里數日當ハ日數ニ應シ之ヲ支給スヘシ

外國旅費ノ日當ヲ給スルトキハ本條ノ日當ヲ支給セス

第六條 赴任又ハ管外旅行ノ爲メ其管内ヲ通過スルキハ其路程ハ管外ニ準シ又管内巡回

ノ際其便宜ニ依リ管外ヲ通過スルキハ其路程ハ管内ニ準スヘシ

第七條 日當ハ陸路六里未滿瀛車十哩未滿及瀛船十海里未滿ノ旅行ニハ支給セザルモノ

トス但公務ノ都合ニ依リ宿泊ヲ要スルトキハ宿泊ノ數ニ應シテ日當ヲ支給スヘシ

第八條 瀛車賃瀛船賃及車馬賃ハ其種類毎ニ經過セシ路程ノ總數ヲ合算シテ之ヲ支給ス

ヘシ但其一位未滿ノ端數ハ計算セザルモノトス

第九條 旅行ノ兩會計年度ニ跨ルトキハ各年度毎ニ之ヲ區別シ旅費ヲ計算スヘシ但瀛車

賃及瀛船賃ハ會計年度ニ拘ハラヌ瀛車瀛船ノ到達地ニ若シタル日ヲ以テ之ヲ區別シテ

計算スヘシ

第十條 檢田測量及土木工事等ノ爲メ現場ヲ巡視スルトキハ車馬賃ヲ給セス日當額ニ三割ヲ増給スヘシ

第十一條 赴任旅費ハ舊任地ヨリ新任地ニ至ルマテ本官相當ノ車馬賃瀛車賃若クハ瀛船賃ノ二倍ヲ支給スヘシ

第十二條 廢官若クハ退官ノ際事務引繼殘務取調其他公務ノ爲メ旅行セシムルトキハ前官相當ノ旅費ヲ支給スヘシ

第十三條 新ニ任用スル爲メ召喚スルモノハ其新任官相當ノ旅費ヲ支給スヘシ

第十四條 旅行中歸省其他私事ノ爲メ許可ヲ得テ迂路ヲ通過スルトキハ順路ノ路程ニ應シ旅費ヲ支給スヘシ

第十五條 旅行中廢官死亡又ハ諭旨退官シヌレモノハ前官相當ヲ以テ舊任地マテノ旅費ヲ支給スヘシ

第十六條 前々條ノ場合ニ於テ日當ヲ支給スル爲メ其日數ヲ計算スルハ瀛車旅行ハ一日二百哩詰瀛船旅行ハ一日百海里詰陸路旅行ハ一日十二里詰トス但距離接近シテ數種ノ旅行相跨ルトキハ各其路程十二分ノ一ヲ以テ一時間ノ行程トシ一日ノ旅行時間ハ十二時間トシ其日數ヲ計算スヘシ

第十七條 各省大臣ハ大藏大臣ト協議シ平常旅行ヲ要スル官吏ニ對シ特ニ其旅費額ヲ定メ月額ヲ以テ之ヲ支給スルコトヲ得

第十八條 各省大臣ハ大藏大臣ト協議シ定額ノ旅費ヲ減少スルコトヲ得

第十九條 二十年六月閣令第十七號ヲ以テ本條刪除

第二十條 陸海軍武官及警察官ノ旅費ハ主任大臣大藏大臣ト協議シ別ニ之ヲ定ムヘシ

第二十一條 神官及雇員其他本令ニ明文ナキ者ノ旅費ハ主任大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ムヘシ

等	級	旅 費 額						
		瀛 車 賃	瀛 船 賃	管外車馬賃	管內車馬賃			
一等	親 任 官	一里毎ニ一海里毎ニ一里毎ニ一里毎ニ一日毎ニ一日毎ニ	金拾五錢	金拾五錢	金五拾六錢	金三拾貳錢	金 四 圓	金 三 圓
二等	勅 任 官	一里毎ニ一海里毎ニ一里毎ニ一里毎ニ一日毎ニ一日毎ニ	金拾貳錢	金拾貳錢	金四拾貳錢	金貳拾四錢	金 三 圓	金 二 圓
三等	奏 任 官	一里毎ニ一海里毎ニ一里毎ニ一里毎ニ一日毎ニ一日毎ニ	金 九 錢	金 九 錢	金貳拾八錢	金拾六錢	金 貳 圓	金 壹 圓
四等	奏 任 官	一里毎ニ一海里毎ニ一里毎ニ一里毎ニ一日毎ニ一日毎ニ	金 九 錢	金 九 錢	金貳拾貳錢	金拾貳錢	金 壹 圓	金 壹 圓
五等	判 任 官	一里毎ニ一海里毎ニ一里毎ニ一里毎ニ一日毎ニ一日毎ニ	金 六 錢	金 六 錢	金拾四錢	金 八 錢	金 九 拾 錢	金 七 拾 錢
六等	判 任 官	一里毎ニ一海里毎ニ一里毎ニ一里毎ニ一日毎ニ一日毎ニ	金 六 錢	金 六 錢	金 八 錢	金 六 錢	金 七 拾 錢	金 五 拾 錢

第一條 北海道廳沖繩縣東京府小笠原島廳長崎縣對馬廳鹿兒島廳大島廳所轄地及東京府管轄伊豆七島内ハ管内巡回ト雖モ管外旅行ニ準シ旅費ヲ支給スルコトヲ得

第二條 北海道廳沖繩縣管轄内ハ車馬賃ニ限リ管外額ノ五割以内ヲ増給スルコトヲ得但北海道廳管轄内ハ毎年十一月ヨリ翌年三月マテ五箇月間車馬賃ニ限リ管外額ノ二倍以内ヲ増給スルコトヲ得

第三條 各省大臣ハ前二條ニ據リ旅費額ヲ定メタルトキハ大藏大臣ニ通知スヘシ

閣令第十四號ヲ以テ内國旅費規則ヲ定メラルルニ付左ノ通り心得ヘシ

- 一 府縣大小書記官ハ三等旅費收稅長ハ四等旅費屬官判任御用掛ハ月俸四拾圓以上五等旅費月俸四拾圓未滿六等旅費ヲ給スヘシ
- 一 北海道廳長官府知事縣令ハ施行ヲ命スルトキ豫メ事務ノ便宜路程ノ近便等ヲ量リ經過ノ道筋旅行日數ヲ定ムヘシ
- 一 海灣河湖等ノ海里ヲ以テ路程ヲ算セサル場合ハ里數ニ應シテ車馬賃ノ額ヲ支給スヘシ
- 一 非常急行上司隨行等ノ如キ場合ニ於テ定額ノ車馬賃ヲ以テ支辦シ難キト認ルルハ北海道廳長官府知事縣令ノ見込ヲ以テ隨時實費拂ヲ許可スヘシ
- 一 海里ノ距離ハ明治五年第三百三十號布告ニ據ルヘシ

- 一 赴任旅費ハ在官者ニシテ在勤地ヲ轉シタル時ニ限リ之ヲ支給スヘシ
- 一 新ニ任用ノ者ハ在勤地マテ規則第十三條ノ旅費ヲ支給スヘシ
- 一 兼官者ハ兼官ノ用務ニ據リ旅行スルルハ兼官相當ノ旅費ヲ給シ本官兼官ノ用務ヲ兼ルルハ本官相當ノ旅費ヲ給スヘシ
- 一 但兼官兼給ナルルハ其旅費額ハ本官ノ給額ニ依ル
- 一 従前特別ヲ以テ旅費支給法ヲ定メタルモノト雖モ總テ閣令第十四號内國旅費規則ニ據ルヘシ

○郡區書記旅費支給方 明治十九年九月内務省令第十五號

郡區書記ノ旅費ハ閣令第十四號内國旅費規則ニ據リ六等旅費ヲ支給スヘシ

但地方ノ情况ニ依リ認可テ經テ定額ノ旅費ヲ節減スルコトヲ得

○學校職員郡區書記戶長等國庫支辨ノ用務ヲ以テ旅行スルトキ旅費支給方 明治二十年六月内務省令第三十七號

明治十九年勅令第六十五号同年閣令第三十五號ノ學校職員及ヒ郡區書記戶長等國庫費支辨ニ屬スル用務ヲ以テ旅行セシムルトキ學校職員ハ其ノ奏任待遇ヲ受クルモノ年俸千圓月俸八圓額 已上ハ三等旅費年俸千圓未滿ハ四等旅費判任待遇ヲ受クルモノ月俸四拾圓額ニ改算ス 已上ハ五等旅費月俸四拾圓未滿ハ六等旅費郡區書記戶長ハ其官等準官等相當旅費ヲ同年閣令第十四号内國旅費規則ニ依リ支給スヘシ

●文官試驗試補及見習規則 明治廿年七月勅令第三十七号

第一 通則

第一條 本令ニ於テ文官ト稱スルハ奏任判任ノ文官ヲ總稱ス試補ト稱スルハ勅令第十三號學位令ニ依リ法學博士文學博士ノ學位ヲ受ケ又ハ法科大學文科大學及舊東京大學法學部文學部ヲ卒業シ又ハ高等試験ヲ經營選シテ高等官ノ實務ヲ練習スル者ヲ云ヒ見習トハ官立府縣立中學校又ハ之ト同等ナル官立府縣立學校及帝國大學ノ監督ヲ受クル私立法學校及司法省舊法學校ノ卒業證書ヲ有シ及普通試験ヲ經營選シテ判任官ノ事務ヲ練習スル者ヲ云フ

本令ニ於テ司法官ト稱スルハ裁判官及檢察官ヲ總稱ス

第二條 第三條第四條ニ掲グル者ヲ除クノ外本令ニ依リ定規ノ試験ヲ經營選シタル者ニアラサレハ試補及見習ニ任命スルコトヲ得ス又實務練習ヲ終リタル者ニアラサレハ本官ニ任スルコトヲ得ス

第三條 三年以上分科大學ノ教授ニ任シタル者ハ高等試験及實務練習ヲ要セス直ニ本官ニ任シ法學博士文學博士ノ學位ヲ受ケタル者又ハ法科大學文科大學及舊東京大學法學部文學部ノ卒業生ハ高等試験ヲ要セス試補ニ任スルコトヲ得

司法官タルノ資格ヲ有スル者ニシテ他官ヨリ司法官ニ轉スルトキ又ハ司法官タルノ資格ヲ有シ三年以上代人タル者ハ實務練習ヲ要セス直ニ本官ニ任スルコトヲ得

第四條 官立府縣立中學校又ハ之ト同等ナル官立府縣立學校及帝國大學ノ監督ヲ受ル私立法學校及司法省舊法學校ノ卒業證書ヲ有スル者ハ普通試験ヲ要セス判任官見習ヲ命

スルコトヲ得

第五條 試験ヲ分テ高等試験普通試験ノ二種トス

高等試験ハ試補ニ任用セラレンコトヲ望ム者ノ爲ニス普通試験ハ判任官見習ニ任用セラレンコトヲ望ム者ノ爲ニス

第六條 試験ハ筆記口述ノ二様トス筆記試験ニ落第シタル者ハ口述試験ヲ受クルコトヲ得

第七條 試験ハ筆記口述ノ二様ニ就キ各科目ノ點數ヲ合算シタル一定ノ平均點數ヲ以テ合格ヲ定メ時々官廳ノ需要ニ應シ人員ヲ限リ内閣ニ於テ合格者中ヨリ選抜シテ當選者ヲ定ム

但一科目ニ付一モ點數ナキモノハ合格者トスルコトヲ得ス

第八條 前條ノ選抜ニ當ラサル者ハ合格者ト雖モ再ヒ文官ノ任用ヲ望ムトキハ更ニ本令ニ依リ試験ヲ受クヘシ

第九條 試験ニ必要ノ參考書類及紙墨ハ試験室ニ備ヘ置キ受験人ノヲ携帯スルコトヲ許サス

第十條 試験當選者ノ姓名ハ官報ヲ以テ之ヲ公告ス

第十一條 第九條ヲ犯シ若クハ不正ノ方法ヲ以テ當選シ他日其事ノ發覺シタルキハ當選ノ効ナキ者トス

第十二條 第九條ヲ犯シタル者及第十一條ノ處分ヲ受ケ又ハ不正ノ方法ヲ以テ當選セン

ト企テタル者ハ再ヒ試験ヲ受クルコトヲ得ス

第十三條 第十八條第二十三條第三十三條第三十六條ノ履歷書中事實ヲ隱匿シ又ハ之ヲ偽リタル者ハ試験ヲ受ルコトヲ得ス

第十四條 試験ニ關スル細則ハ閣令ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條 本令施行ノ後五箇年間ハ事務練習中ト雖モ本官ノ缺アルトキハ其練習ノ滿期ヲ待スシテ本官ニ任ズルコトアルヘシ

五箇年以上奏任官ヲ勤メタル者ニシテ高等試験ヲ經營選シタル者ハ事務練習ヲ要セス直ニ本官ニ任ズルコトヲ得

第二 高等試験

第十六條 高等試験ハ各官廳ノ須要ニ從ヒ時々東京ニ於テ試験委員之ヲ行フ其期日及場所ハ官報ヲ以テ之ヲ公告ス

第十七條 高等試験ヲ受クルコトヲ得ル者左ノ如シ

- 一 丁年以上ノ男子
- 一 外國ニ於テ大學校又ハ之ト同等ナル學校ノ卒業證書ヲ有シ又ハ三年以上其學科ヲ修學シタル旨ヲ証明スル證書ヲ有スル者
- 一 文部大臣ノ認可ヲ經タル學則ニ依リ法律學政治學又ハ理財學ヲ教授スル私立學校ノ卒業證書ヲ有スル者
- 一 高等中學校及東京商業學校ノ卒業證書ヲ有スル者

一 五箇年以上奏任官ヲ勤メタル者

第十八條 試験願書ハ其時々官報ヲ以テ公告スル期日前ニ左ノ證書ヲ取添之ヲ試験委員長ニ差出スヘシ

一 出願者ノ履歷書

一 第十七條ニ掲グル卒業證書及修學證書ノ寫

一 身分職業年齢及兵役ニ關スル區戸長ノ證書

第十九條 高等試験ノ科目ハ試験ヲ行フ年毎ニ司法官又ハ行政官ノ別ニ依リ各管廳所掌ノ事務ヲ斟酌シテ文官試験局長官之ヲ選定シ試験ノ期日三箇月前ニ官報ヲ以テ之ヲ公告ス

第二十條 第三條第四條ノ資格ヲ具スル者ヲ除クノ外教官技術官其他特別ノ學術技藝ヲ要スルモノハ別段ノ試験法ヲ定ムルマテ各官廳ノ需要ニ從ヒ試験ヲ經スシテ之ヲ任用スルコトヲ得

第三 試補

第二十一條 試補ハ所屬大臣ノ指命スル所ニ就キ定限ヨリ短カラサル期限間事務ヲ練習スヘシ

第二十二條 各官廳試補ノ定員ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第二十三條 法學博士文學博士ノ學位ヲ受ケタル者又ハ法科大學文科大學及舊東京大學法學部文學部ノ卒業生ニシテ行政官又ハ司法官ノ試補ヲランコトヲ望ム者ハ左ノ書類

ヲ取添高等試験期日三十日以前ニ其旨ヲ文官試験局長官ニ出願スヘシ

一 出願者履歷書

一 學位又ハ卒業證書ノ寫

一 身分年齢

第二十四條 行政官ノ試験ハ便宜ニ從ヒ少クモ一箇年半ハ地方官廳一箇年半ハ中央官廳ニ於テ其事務ヲ練習スヘシ

第二十五條 司法官ノ試験ハ便宜ニ從ヒ少クモ一箇年半ハ治安裁判所一ヶ年半ハ始審裁判所ニ於テ其事務ヲ練習スヘシ

第二十六條 試験ハ所屬大臣ノ指命スル所ニ就キ事務ヲ練習スルコト付テハ其主務長官ノ指揮監督ヲ受クヘシ

第二十七條 主務長官ハ事務練習ノ終ニ於テ試験練習ノ功程ヲ所屬大臣ニ具狀シ其意見ヲ提出スヘシ

第二十八條 所屬大臣ハ練習期限中ト雖モ試験官吏ニ必要ナル品位ヲ失ヒタルモノト認ムルトキハ試験ヲ免スヘシ

第二十九條 在職ノ判任官ニシテ高等試験ヲ經營選シタル者ハ事務練習ヲ要セス缺員アル場合ニ於テハ直ニ本官ニ任スルコトヲ得

第三十條 試験ノ命ヲ受ケ所屬大臣ノ指命スル所ニ就キ事務ヲ練習セサル者ハ試験ヲ免スヘシ

第四 普通試験

第三十一條 中央官廳ニ於テ要スル判任官ノ普通試験ハ各官廳ノ普通試験委員之ヲ行フ其期日場所ハ時々其官廳ヨリ官報ヲ以テ之ヲ公告ス

第三十二條 地方官廳ニ於テ要スル判任官ノ普通試験ハ委員長ヨリ新聞紙又ハ其他ノ方法ヲ以テ之ヲ公告ス

第三十三條 試験願書ハ本人自ラ之ヲ認メ其時々公告スル期日前ニ左ノ証書ヲ取添之ヲ普通試験委員長ニ差出スヘシ

一 出願者ノ履歷書

一 身分職業年齢及兵役ニ關スル區戸長ノ証書

第三十四條 普通試験ノ科目ハ各官廳所掌ノ事務ヲ斟酌シテ普通試験委員之ヲ選定シ文官試験局長官ノ認可ヲ經テ試験ノ期日一箇月前ニ官報又ハ其他ノ方法ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第五 判任官見習

第三十五條 各官廳ハ其需要ニ從ヒ官立府縣立中學校又ハ之ト同等ナル官立府縣立學校及帝國大學ノ監督ヲ受クル私立法學校又ハ司法省舊法學校ノ卒業證書ヲ有シ及普通試験ニ及第シタル者ニ判任官見習ヲ命スヘシ

判任官見習ヲ命セラレタル者ハ所屬長官ノ指名スル所ニ就キ二箇年ヨリ短カサル期限間事務ヲ練習シ判任官ノ缺員ヲ待テ本官ニ任セラレヘシ

第三十六條 官立府縣立中學校又ハ之ト同等ナル官立學校及帝國大學ノ監督ヲ受クル私立學校又ハ司法省舊法學校ノ卒業證書ヲ有シ判任官見習ヲランコトヲ望ム者ハ普通試驗期日三十日以前ニ左ノ書類ヲ添ヘ主務官廳ニ出願スヘシ

- 一 出願者ノ履歷書
- 一 卒業證書ノ寫

一 身分職業年齡及兵役ニ關スル區戸長ノ證書

第三十七條 所屬長官ハ判任官見習官吏ニ必要ナル品位ヲ失ヒタル者ト認ムルトキハ判任官見習ヲ免スルコトヲ得

第三十八條 本令施行ノ前ニケ年以上各官廳ニ於テ雇員トナリタル者ニシテ事務ニ熟練シタル者ト本屬長官ニ於テ認ムルトキハ試驗ヲ要セス直ニ判任官ニ任スルコトヲ得

第三十九條 本令ハ明治二十一年一月ヨリ施行ス

●文官試驗委員官制 明治二十年七月 勅令第三十八號

第一條 文官試驗委員ハ文官試驗局試驗委員中央普通試驗委員及地方普通試驗委員ヲ總稱ス

高等試驗

第二條 高等試驗ヲ施行シ文官ノ試驗ニ關スル一切ノ事務ヲ掌サトラシムル爲ニ文官試驗局ヲ置キ内閣總理大臣ノ管轄ニ屬ス職員ヲ置クコト左ノ如シ

長官

試驗委員

書記官

屬

第三條 長官一人ヲ勅任トス文官試驗試補及見習規則ニ關スル一切ノ事務ヲ總理シ兼テ

高等試驗委員ノ長トナル

第四條 長官ハ文官ノ試驗委員ヲ監督シ試驗ノ事務ニ關シテ時々報告ヲ命ジ又ハ訓令ヲ下スコトヲ得

第五條 長官ハ帝國大學及其他勅令第三十七號ノ試驗ニ關スル諸學校ノ試驗規程ニ關シテ内閣總理大臣又ハ所屬長官ニ意見ヲ述ルコトヲ得

第六條 長官ハ毎年末ニ於テ試驗出願者當選者試補見習並文官任用ノ人員身分年齡族籍等ヲ統計細別シ其意見ヲ具シテ内閣總理大臣ニ報告スヘシ

第七條 長官ハ内閣總理大臣ノ認可ヲ經テ文官試驗試補見習ニ關スル細則ヲ定ムルコトヲ得

第八條 文官試驗局ノ試驗委員ハ内閣總理大臣各官廳ノ勅委任官及官立學校ノ教官ヨリ選テ之ニ充ツ

第九條 文官試驗局ノ試驗委員ハ長官ノ監督ニ屬シ其徵召ニ應ジ文官試驗試補及見習規則及之ニ關スル諸細則ニ依リ高等試驗ヲ執行スル事ヲ掌ル

第十條 書記官ハ二人奏任トス長官ノ指揮監督ヲ承ケ文書ヲ整理ス

第十一條 屬ハ判任トス上官ノ命ヲ受テ書記計算簿記ノ事ヲ掌ル

普通試験

第十二條 普通試験ヲ施行シ及之ニ關スル一切ノ事務ヲ掌ラシムル爲ニ中央官廳ニ於テハ官廳毎ニ普通試験委員ヲ置キ府縣ニ於テハ府縣毎ニ普通試験委員ヲ置ク

第十三條 中央官廳ノ普通試験委員ハ局長參事官書記官又ハ其他ノ高等官ヨリ選テ各官廳ノ長官之ヲ命スヘシ

第十四條 地方官廳ノ普通試験委員ハ各官廳ノ官吏及官立府縣立學校ノ教員ヨリ選テ各官廳ノ長官之ヲ命シ又ハ囑托スヘシ

第十五條 普通試験ヲ施行スル爲ニ各官廳ノ長官ハ委員中ヨリ選テ普通試験委員長ヲ命スヘシ

第十六條 各官廳ノ長官ニ於テ普通試験委員長及委員ヲ命シ又ハ囑托シタルトキハ其官職姓名ヲ文官試験局長官ニ通知スヘシ

第十七條 普通試験委員長ハ文官試験補及見習規則ニ依リ所管普通試験ヲ施行シ及之ニ關スル一切ノ事務ヲ掌リ普通試験委員ヲ監督ス

第十八條 普通試験委員長ハ官立府縣立諸學校ノ試験規程ニ關シテ意見アホトキハ之ヲ文官試験局長官ニ具申ス

第十九條 普通試験委員長ハ每年末ニ於テ試験出願者當撰者事務練習人並文官任用ノ人員身分年齡族籍等ヲ統計細別シ其意見ヲ具シテ文官試験局長官ニ報告スヘシ

第二十條 普通試験委員ハ普通試験委員長ノ徵召ニ應シ文官試験補及見習規則及之ニ關スル諸細則ニ依リ普通試験ヲ施行シ時々其結末ヲ普通試験委員長ニ報告スル事ヲ掌ル

第二十一條 普通試験ノ事務ニ關シ書記計算簿記ヲ掌ラシムル爲ニ各官廳ニ俸職スル判任官ヲ以テ書記ニ充ツヘシ

文官試験補及見習待遇 明治二十年十一月 勅令第五十七號

本年七月 勅令第三十七號文官試験補及見習規則ニ據リ試験補及見習ヲ命セラレタル者ノ待遇ハ試験補ヲ奏任トシ見習ヲ判任トス同則ニ據リ試験補及見習ヲ本官ニ任用スルニハ試験補ハ奏任官四等以下トシ見習ハ判任官五等以下トス

○文官試験補及見習規則ニ關スル細則 明治二十年七月 閣令第十八號

第一條 高等試験ハ左ノ科目中司法官ハ五科目以上行政官ハ三科目以上ヲ以テ試験ヲ行フノ定限トシ試験期日及場所ト共ニ三箇月以前ニ文官試験局長官々報ヲ以テ之ヲ公告ス司法官ノ試験ハ一二三四五六七ノ科目中ニテ試験ヲ行フノ科目ヲ定メ行政官ノ試験ハ二三四ノ科目ヲ除キ自餘ノ科目中ニテ試験ヲ行フノ科目ヲ定ム

- 一 民法
- 二 訴訟法
- 三 刑法
- 四 治罪法

- 五 商法
- 六 憲法
- 七 行政
- 八 財政
- 九 理財
- 十 國際法

第二條 前條ノ科目中本邦ニ成典アルモノヲ除クノ外ハ受験人ハ豫メ文官試験局長官ノ許可ヲ得タル外國ノ書籍ニ依リ試験ヲ受クルコトヲ得

第三條 高等試験ハ國語及漢字交リノ文ヲ以テ之ヲ行フ特ニ外國語及外國文ヲ以テ試験ヲ受ケンコトヲ願フ者ハ豫メ文官試験局長官ノ許可ヲ受ク可シ

第四條 勅令第三十七號文官試験試補及見習規則第三條ノ資格ヲ具スル者ヲ除クノ外敎官技術官其他特別ノ學術技藝ヲ要スル者試験ヲ爲ストキハ其試験ノ科目ハ試験ノ期日及場所ト共ニ三箇月以前ニ文官試験局長官ヨリ報ヲ以テ之ヲ公告ス

第五條 高等試験ハ勅委任官ニシテ文官試験局長官ノ許可ヲ得タル者ノ外傍聽ヲ許サズ

第六條 筆記試験ハ受験人總員ヲ一室又ハ數室内ニ閉鎖シ一室毎ニ試験委員一名監視シテ之ヲ行フヘシ但受験人一名ナルトキハ試験委員二名監視スルヲ要ス

第七條 筆記試験ノ問題ハ試験局長官定ムル所ノ方法ニ依リ各受験人ヲシテ之ヲ知悉セシメ豫定ノ時間内ニ答辨書ヲ差出サシム

第八條 筆記試験ノ問題ノ數ハ各科目ニ付試験委員ノ議定シタル所ニ依ル

第九條 試験室ニ備ヘ置クヘキ必要ノ參考書類ハ法律類集官報其他公然ノ法章ニ限ル

第十條 口述試験ハ筆記試験ヲ終リタル後試験委員長ノ上席ヲ以テ試験委員總員ノ列席ニ於テ受験人一名毎ニ試問シテ即時答辨ヲ爲サシムヘシ

第十一條 口述試験ハ各受験人ニ付半時間以上一時間以内トス

第十二條 高等試験ハ受験人ノ果シテ學理上ノ原則ニ通曉スルヤ現行ノ法律命令ヲ解得スルヤ又法律命令ヲ實務ニ應用シ及之ヲ口述スルニ確實敏捷ナルヤ否ヲ試験スルヲ以テ目的トスヘシ

第十三條 高等試験ヲ經タル各科目ノ點數及其全體ノ効果ニ關シ合格者ヲ定ムルハ試験委員ノ議定シタル平均點數ニ依ル

第十四條 當選者ハ各合格者ニ就キ試験委員長ノ具狀スル所ニ依リ各官廳ノ需要ニ應シ人員ヲ限リ内閣ニ於テ之ヲ定ム

第十五條 前條ノ合格者中ヨリ當選者ヲ査定スルハ其試験ヲ行ヒタル日ヨリ四週間以内ニ之ヲ結了シ官報ヲ以テ其姓名ヲ公告スヘシ

第十六條 試験委員長ハ試験委員ノ職務ニ屬スル議決ノ數ニ入ラス若シ其議決ニ關シ試験委員ノ說可相半ストキハ試験委員長ノ定ムル所ニ依ル

第十七條 受験人ハ其試験ヲ受クル際試験手續ニ關スル規則及試験委員ノ命令ヲ遵守スヘシ犯ス者ハ監視ノ試験委員ニ於テ退室ヲ命シタルノ後之ヲ試験委員長ニ報告シ其

試験ヲ拒ムコトヲ得

第十八條 高等試験ノ手續ニ關スル細目ハ文官試験局長官ノ定ムル所ニ依ル
第十九條 普通試験ニ關スル細則ハ文官試験局長官ノ認可ヲ經各官廳ノ普通試験委員ノ定ムル所ニ依ル

郡區長ノ試験 明治二十年七月 閣令第二十號

地方現今ノ情況ニ依リ郡區長ノ試験ハ學術ニ偏セス實務ヲ旨トシテ專ラ其地ノ狀勢民情及利害ニ通曉スル者ヲ選任スヘキ必要アルヲ以テ郡區長試験科目ハ當分ノ内地方ノ實況ヲ斟酌シテ内務大臣ノ指定スル所ニ依ル

但郡區長ハ高等試験ヲ經タル者ニ非レハ他ノ高等官ニ轉スルコトヲ得ス

在職判任官高等官ニ任用方 明治二十年十一月 閣令第二十三號

本年七月 勅令第三十七號文官試験試補及見習規則第二十九條在職判任官ニシテ直ニ本官ニ任スルヲ得ル者ハ在職三年ニ滿ル者ニ限ル若シ三年ニ滿サル者ハ先試補ニ任用シ前後適算シテ三年ニ滿ルヲ待テ本官ニ任スルモノトス

官吏服務紀律 明治二十年七月 勅令第三十九號

第一條 凡ソ官吏ハ天皇陛下及天皇陛下ノ政府ニ對シ忠順勤勉ヲ主トシ法律命令ニ從ヒ各其職務ヲ尽スヘシ

第二條 官吏ハ其職務ニ付本屬長官ノ命令ヲ遵守スヘシ但其命令ニ對シ意見ヲ述ブルコトヲ得

第三條 官吏ハ職務ノ内外ヲ問ハス廉耻ヲ重シ貪汚ノ所爲アルヘカラス

官吏ハ職務ノ内外ヲ問ハス威權ヲ濫用セス謹慎懇切ナルコトヲ務ムヘシ

第四條 官吏ハ已ノ職務ニ關スルト又ハ他ノ官吏ヨリ聞知シタルトチ問ハス官ノ機密ヲ漏洩スルコトヲ禁ス其職ヲ退ク後ニ於テモ同様トス

裁判所ノ召喚ニ依リ證人又ハ鑑定人トナリ職務上ノ秘密ニ就キ訊問ヲ受クルトキハ本屬長官ノ許可ヲ得タル件ニ限り共述スルコトヲ得

第五條 官吏ハ私ニ職務上未發ノ文書ヲ關係人ニ漏示スルコトヲ禁ス

第六條 官吏ハ本屬長官ノ許可ナクシテ擅ニ職務ヲ離レ及職務上居住ノ地ヲ離ナル、コトヲ得ス

第七條 官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ營業會社ノ社長又ハ役員トナルコトヲ得ス

第八條 官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ其職務ニ關シ慰勞又ハ謝儀又ハ何等ノ名義ヲ以スルモ直接ト間接トヲ問ハス總テ他人ノ贈遺ヲ受ルコトヲ得ス

官吏外國ノ君主又ハ政府ヨリ授與セントスル所ノ勳章榮賜俸給並贈遺ヲ受クルニハ天皇陛下ノ裁可ヲ要ス

第九條 左ニ掲ケタル者ト直接ニ關係ノ職務ニ居ルノ官吏ハ其褻燕ヲ受クルコトヲ得ス

- 一 官廳ノ工事ヲ受負フ者
- 一 官廳ノ爲替方又ハ出納ヲ引受クル者

- 一 官廳ノ補助金ヲ受クル起業者
- 一 官廳ノ用品ヲ調達スルモノ
- 一 官廳ト諸般ノ契約ヲ結フ者
- 第十條 凡ソ上官タルモノハ職務ノ内外ヲ問ハス所屬官吏ヨリ贈遺ヲ受クルコトヲ得ス
- 第十一條 官吏並ニ其家族ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ商接ト間接トヲ問ハヌ商業ヲ營ムコトヲ得ス
- 第十二條 官吏ハ取引相場會社ノ社員タルコトヲ得ス及間接ニ相場商業ニ關係スルコトヲ得ス
- 第十三條 官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非レハ本職ノ外ニ給料ヲ得テ他事務ヲ行フコトヲ得ス
- 第十四條 浪費シテ産ヲ破リ其分ニ應セサル負債ヲ爲ス者ハ過失ノ一タルヘシ
- 第十五條 官吏ハ私立郵船會社又ハ私立鐵道會社ヨリ無賃乘船無賃乘車切符ヲ受クルコトヲ得ス
- 第十六條 凡局長所長其他一部ノ長ハ各所屬官吏ヲ監督シ其過失若シ懲戒處分ヲ行フノ區域ノ内ニ在ラサル者ハ之ヲ訓告スルコトヲ務ムヘシ若シ懲戒處分ヲ要スト認ルトキハ事狀ヲ具ヘテ之ヲ本屬長官ニ稟告スヘシ其情ヲ知り隠蔽シテ稟告セサル者亦過失タルコトヲ免レヌ
- 第十七條 本紀律ハ高等官判任官及俸給ヲ得テ公務ヲ奉スル者ニ適用ス

○新年紀元節天長節賀表式 明治十九年十月宮内省達第十二号

新年紀元節天長節賀表書式左ノ通改正ス

賀表書式

- 一 書式ヲ別々四種トス其第一ハ准奏任以上第二ハ非役有爵者同從六位以上同勳六等以上ノ賀表書式トス其第三ハ判任官准判任第四ハ非役正七位以下同勳七等以下ノ參賀言上書式トス其料紙ハ大奉書ヲ用ユヘシ但便宜ニ依リ美濃紙薄葉ヲ以テ代用スルモ妨ケナシ
- 一 賀表ハ新年ニ朝拜シ又ハ新年紀元節天長節ニ宮内省へ參賀シ得ヘキ身分ニシテ他所出張或ハ在勤在任ノ者ハ書式ノ通り認メ直ニ式部職ヲ經テ上ル可シ但シ奏任官並准奏任ハ連名ヲ以テ上ルモ便宜タル可シ
- 一 判任官准判任ハ所屬廳へ參賀スヘシ内閣省元老院廳府縣各廳ノ長官（臨時建築局ハ總裁内閣中會計検査院鐵道局ハ其長官）ハ所轄判任官ノ參賀及出張若クハ各所在勤者ノ賀表ヲ受テ參賀言上書式ノ通り認メ式部職ヲ經テ上ル可シ其所屬廳へ參賀又ハ賀表差出サセ方ハ各廳ニ於テ適宜之ヲ定ム可シ但シ郵送スル賀表ヲ取纏ル爲メ時日ヲ要スル時ハ數日ノ後言上スルモ妨ケナシ
- 一 陸海軍兵卒生徒等ニシテ正七位以下勳七等以下ヲ有スル者ハ總テ本項ノ例ニ准シ書式ノ通り認メ上ル可シ
- 一 神官判任ハ其長官ニテ參賀ヲ受テ書式ノ通り認メ式部職ヲ經テ上ル可シ若シ長官不

在ニシテ代理者判任ナル時ハ一同直ニ内務省へ賀表ヲ差出シ同省ヨリ第三書式ニ準シ認メ上ル可シ

一 北海道廳判任官在京ノ節ハ内閣へ地方判任官神官判任在京ノ節ハ内務省へ参賀シ又判任官ニシテ其長官ニ從ヒ他所出張中ハ長官参賀ヲ受ケ書式ノ通認メ上ル可シ

一 非役正七位以下同勳七等以下ノ者ハ所在地方廳へ参賀シ該廳懸隔ノ地ニ在ル者ハ賀表ヲ差出ス可シ其賀表書式並差出サセ方ハ地方廳ノ適宜ニ依ル尤其廳長官ヨリ書式ノ通メ認メ上ル事第三項ノ例ニ準ス

一 有爵者及從六位以上勳六等以上ニシテ判任官奉職ノ者ハ第二書式ニ依リ認メ上ル可シ又正七位以下勳七等以下ニシテ等外或ハ雇等ノ名義ヲ以テ官廳ニ使用セラル、者ハ所在地方廳ニ参賀ス可シ該廳懸隔ノ地ニ在ル者ハ第六項ニ準ス

一 祝節ニ當リ艦船ニ乗組又ハ航海中ノ者ハ賀表ヲ上ルニ及ハス
(書式略之)

山形縣令類纂下編終

明治二十年十二月二十二日版權免許
同 年 八 月 六 日 印 刷
同 八 月 十 日 出 版

發行者

山形縣羽前國西田川郡鶴岡
最上町甲第二十七番地

岸 重 節



印刷者

山形縣羽前國南村山郡山形
旅籠町番外二十八番地

遠 藤 時 助

777A-9

